

令和8年度 ティーチング・ポートフォリオ

美術学部 美術表現学科 教授

三浦 忠士

1. 教育の責任（何をしているのか？ 担当科目は？）

➤ 地域創生演習Ⅰ～Ⅵ

◆ 地域創生演習Ⅰ

「地域」や「創生」の意味について実地調査や美術作品の鑑賞を通して考察した上で、芸術分野における地域創生の実践例として「サイトスペシフィック」に分類される作品群を捉え返し、その意味について学ぶ。さらに仙台市内で展開されているサイトスペシフィックの取り組みに参加し、学びを深める。

◆ 地域創生演習Ⅱ

学生が生活する地域ならではの自然素材や環境、文化といった地域資源を探る。その上で、学生が生活者として自身の暮らしをよりよくすることにつながるような、地域資源を活かした表現について学ぶ。

◆ 地域創生演習Ⅲ・Ⅴ（2年・3年合同授業）

多様な地域資源の特徴を学ぶ。また、地域資源を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を教授する。さらに講師自身が地域資源を活かしたまちづくりに参画する地域に赴いて、講師とともに活動する個人・団体の取り組みに資するような美術の実践も体験し、学びを深める。

◆ 地域創生演習Ⅳ・Ⅵ（2年・3年合同授業）

五感を使い分けて地域資源の特徴をつかむ方法を体験する。また、このような地域資源の特徴を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を体験する。さらにこのような手法を活かした社会貢献を、講師自身が地域資源を活かしたまちづくりに参画する地域におもむいて体験する。

➤ 版画Ⅰ・Ⅱ

◆ 版画Ⅰ

主要4版種の違いを講義を通して学んだ上で、そのうち3版種の一版単色刷りを体験して各技法の特徴を掴む。また、それぞれの版種で用いる素材の特徴も学ぶ。

◆ 版画Ⅱ

多版多色刷りや化学反応を利用した高度な製版の技法の体験を通して、版画Ⅰで学んだ各版種の技法・素材の特徴への理解を深める。

2. 教育の理念（なぜしているのか？何を信じて教育をしているのか？学生にどうなって欲しいのか？）

地域創生演習・版画はいずれも、扱う素材の特徴を探り、その魅力を引き出す方法を学ぶ科目である。学生にはこれらの履修を通して身近な素材の魅力を発見して引き出す楽しさに気づき、その探求に主体的に取り組めるようになって欲しい。

身近な素材の魅力を活かした美術作品がつかれるようになるということは、それらに日常的に触れる日々の生活がより豊かなものになるということを意味する。学生には身の回りのものから次々と作品を生み出し、それらに囲まれた生活環境を自らつくり出すことで、より充実した毎日を過ごせるようになって欲しい。

そしてこのような生活環境は、素材の魅力や美術作品に共感する他者と生きる喜びを分かち合い、共に生きていくための礎としても機能する。このような他者との共生を実現する実践として美術を捉え返し、よりよい人生を歩んでいって欲しい。

3. 教育の方法（理念や目的を達成するためにどのように実践しているのか？）

<地域創生演習Ⅰ～Ⅵ>

- 地域資源をモチーフや素材とする課題作品の制作
- 学内や校外学習で訪れた地域における地域資源の調査
- 地域資源のスケッチを通した魅力の発見
- 校外学習先での課題作品の制作を通した地域貢献の体験

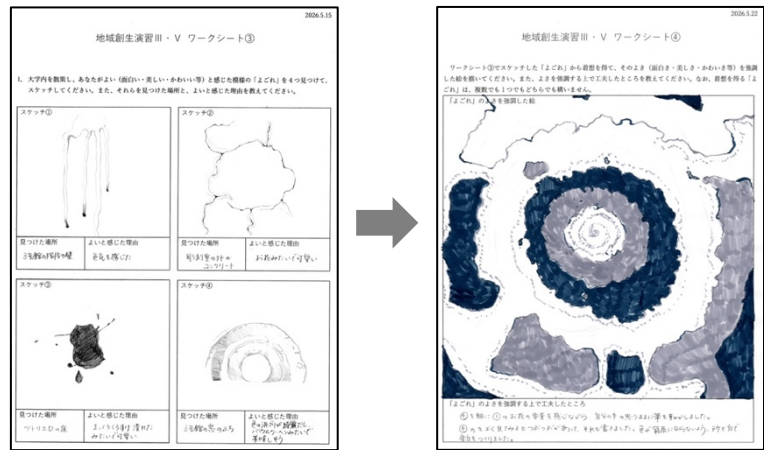
<版画Ⅰ・Ⅱ>

- 版種ごとの特徴を比較しながら解説
- 同じ版種でも異なる材料・道具を用いることで全く違った特徴を持つ作品が出来る上がることを豊富な作例を用いて解説

4. 教育の成果（教育方法を行った結果、どうだったか？）

<地域創生演習Ⅰ～Ⅵ>

学内では、地域資源をモチーフや素材とした作品の制作を課したところ、それまで学生が見逃していた地域の魅力に気づき、それを美術表現に昇華させる機会をつくることができた。



例 1：学内で見つけた魅力的な「よごれ」をモチーフとしたドローイング



例 2：学内で見つけた自然資源を素材として用いた作品

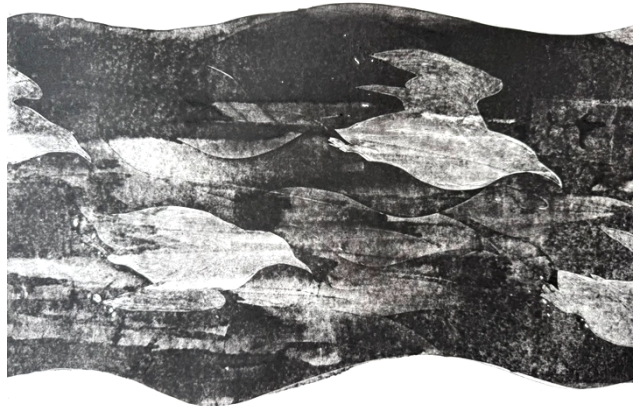
校外学習では、訪れた地域で活動する協力団体の課題を伝えた上で、その解決に寄与するような作品の制作を、地域資源をモチーフや素材として制作する課題を課した。その結果、地域の魅力を美術表現に昇華させた作品の制作を通して、地域貢献ができる体験の機会を創出することができた。



例 3：参加者の減少が課題となっている仙台市若林区荒浜地区の伝統行事『荒浜灯籠流し』の実行委員会から依頼を受け、地域資源をモチーフや素材として活用した作品を学生が制作。参加者の増加に寄与した。

<版画 I・II>

ステンシル・シルクスクリーン・ゴム版・紙ドライポイント・エッチング・木版多版多色刷と多種多様な版種を用いて、様々な種類の紙や布に作品を刷る機会をつくった。その結果、それぞれの特徴を活かした個性的な作品が数多く生み出された。



例4：紙の質感やニードル・サンドペーパーの特徴を活かした紙ドライポイントの作品



例5：木や和紙の質感や彫刻刀の特徴を活かした木版多版多色刷り



例6：布やブレダン紙の質感やスキージによる刷り味を活かしたシルクスクリーンの作品を中核とするミクストメディア

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<地域創生演習Ⅰ～Ⅵ>

所属・連携する下記の団体との関係を活かし、学生が美術表現を通して地域に貢献する機会をより多くつくる。

- ◆ 杜の都の市民環境教育・学習推進会議（委員として所属。環境に配慮する人を育てるための組織。市民・NPO・学校・事業者・行政等の協働により、学校教育や生涯学習も含めた総合的な環境教育・学習を推進）
- ◆ 三本松自然史研究会（監査として所属。仙台市とその周辺地域の自然環境の調査・研究・保全、及びその普及啓発活動に取り組んでいる任意団体）
- ◆ フカヌマビーチクリーン（メンバーとして所属。仙台市若林区の深沼海岸の清掃活動に取り組んでいる任意団体）
- ◆ 仙台市環境局環境共生課（所属する「杜の都の市民環境教育・学習推進会議」を所管・「フカヌマビーチクリーン」「三本松自然史研究会」と連携）
- ◆ 株式会社 めぐみキッチン（取締役として所属。仙台市若林区荒浜地区の土地の魅力を参加者とともに楽しむ事業を展開）
- ◆ 海辺の図書館（メンバーとして所属。仙台市若林区荒浜地区の生活文化の記録・継承するコミュニティの形成に取り組んでいる任意団体）
- ◆ 荒浜磯獅子踊を再生する会（メンバーとして所属。仙台市若林区荒浜地区の伝統芸能「荒浜磯獅子踊」の再生・上演に取り組んでいる任意団体）
- ◆ 仙台市若林区まちづくり推進課（「株式会社めぐみキッチン」「荒浜磯獅子踊を再生する会」の活動で連携）
- ◆ 認定特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク（前職・現在も活動への支援を継続。仙台市の海岸公園冒険広場・子育てふれあいプラザ若林「のびすく若林」を指定管理者として運営・管理するほか、仙台市・宮城県と連携して子どもがのびのび遊べる環境づくりに取り組んでいる）
- ◆ ひがこうプレーパーク（メンバーとして所属。仙台市青葉区の勝山東公園で子どもがのびのび遊べる環境づくりに取り組んでいる任意団体）
- ◆ おてんとさん影絵の会（メンバーとして所属。日本初の童謡専門誌「おてんとさん」の精神を継承し、仙台市を中心に活動する市民グループ。伝統的な童謡の普及や、子どもたちに向けた心温まる影絵芝居の公演に取り組んでいる任意団体）
- ◆ あれспе実行委員会（副実行委員長として所属。東日本大震災の記憶と教訓を伝承するイベントを毎年開催。仙台市市職員及び市民有志で構成される任意団体）
- ◆ のりっぱ部会（幹事として所属。仙台市青葉区大手町の道路予定跡地の一角を屋外美術展や地域の行事の会場として活用する活動に取り組んでいる任意団体。花壇大手町町内会の役員・ギャラリーターンアラウンドのスタッフ及び市民有志で構成されている）

<版画Ⅰ・Ⅱ>

学生のニーズに気を配り、より主体的に版種や素材の魅力を探求できるような教材の更新・ブラッシュアップに努める。